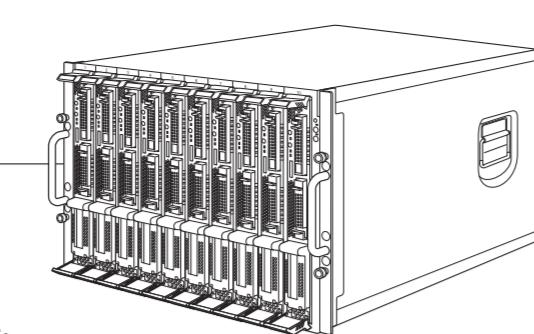


PRIMERGY BX600

はじめにお読みください

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書では、PRIMERGY BX600ブレードシステム（以降、本製品）の導入について、セットアップの
基本的な流れを説明しています。
本書をご覧になり、本製品を使用する準備をしてください。
本書に記載されていない項目や詳しい手順については、関連する各マニュアルをご覧ください。



本製品のマニュアルについて

本製品の各マニュアルは、『PRIMERGY ServerView Suite DVD 2』に格納されています。
必要に応じてお読みください。

ブレードシステムの概要については、『シャーシ ハードウェアガイド』をご覧ください。

1 作業を始める前に

『梱包物一覧』 『安全上の注意』

梱包物を確認する

シャーシ、およびサーバブレードそれぞれの「梱包物一覧」をご覧になり、
梱包物がすべて揃っているか確認してください。

□「梱包物一覧」
(シャーシ)

□「梱包物一覧」
(サーバブレード)



必要なものを用意する

本製品のセットアップには、製品に同梱されているもの以外にも次のものが必要になります。
作業を始める前に、すべて揃っているか確認してください。

□プラスドライバー（2番）

シャーシをラックに搭載する
するときに使用します



□管理端末（パソコン）



□DVDドライブ（USB）



□キーボード（USB）
□マウス（USB）
□ディスプレイ（アナログ）

サーバブレードにOSをインストールするときに使用します

『安全上の注意』を確認する

『安全上の注意』には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に取り扱ってください。
また、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。



2 シャーシを設置する

設置条件について

本製品は、ラックに搭載して使用します。ラックには必ず転倒防止用スタビライザを取り付けてください。
ラックの設置および取り扱いについてはラックに添付のマニュアルをご覧ください。
本製品のラック搭載条件や消費電力などの設計構築に必要な情報については、
『PRIMERGY』ページの「技術情報」(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/tec.html>)で公開されている
「ラックシステム構築ガイド」および「サーバ消費電力・質量確認ツール」をご覧ください。

なお、本製品の騒音値は、実測値で約65dBです。専用室への設置をお勧めします。オフィスに設置する場合は、十分にご注意ください。

『ラック搭載ガイド』

本製品の設置環境条件については、
『安全上の注意』をご覧ください。

コンポーネントを取り外して軽量化する

シャーシには、標準搭載のコンポーネント、およびカスタムメイドサービスで選択されたコンポーネントがあらかじめ搭載されており、最大で約67kgの質量があります。

油圧リフターなどを使用しない場合は、安全のため、次のコンポーネントを取り外してからラックに搭載してください。

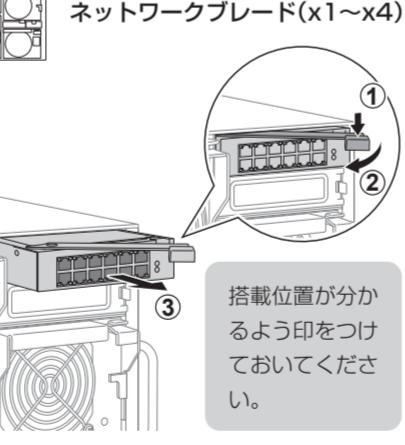
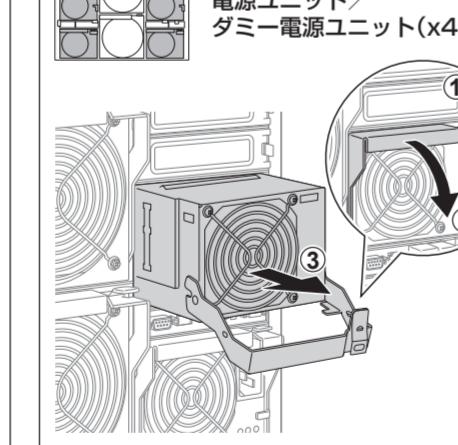
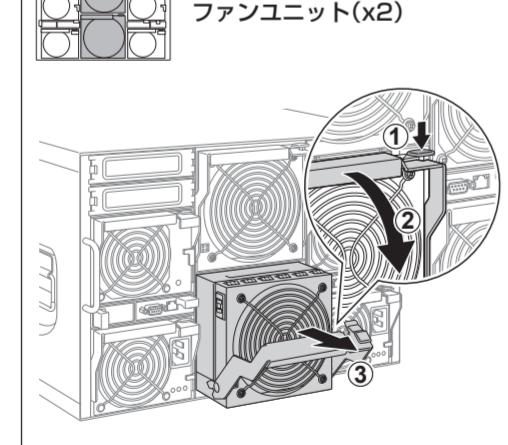
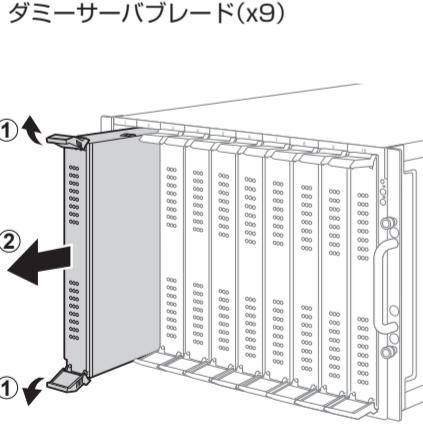
なお、これらを取り外しても約37kgの質量がありますので、搭載作業は2人以上で慎重に行ってください。

ダミーサーバブレード(x9)

ファンユニット(x2)

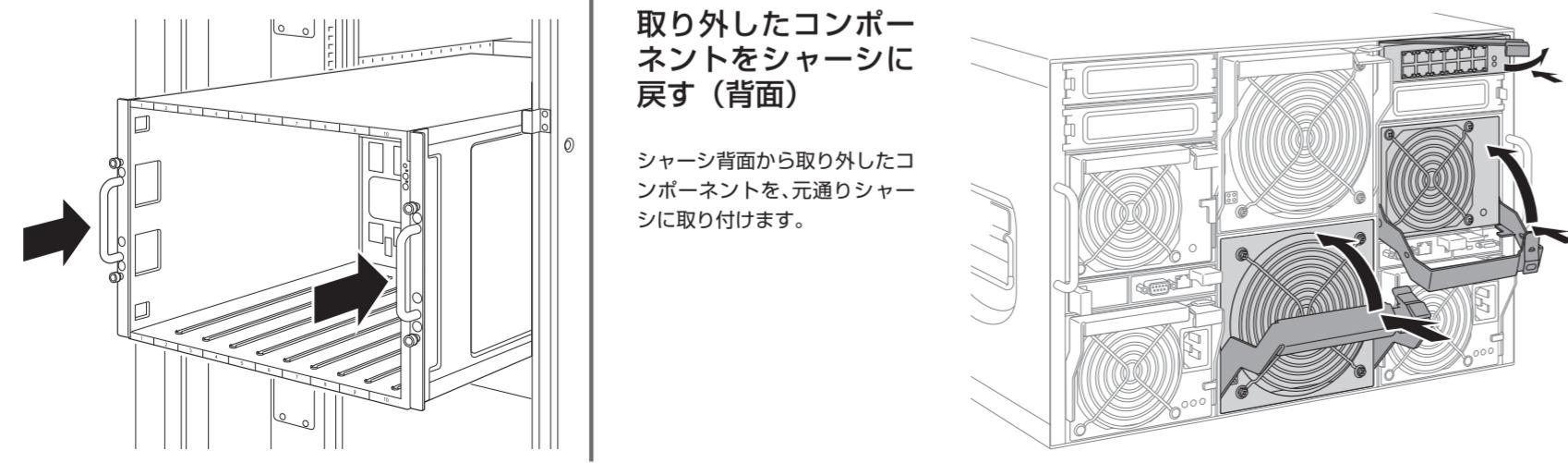
電源ユニット/ダミー電源ユニット(x4)

ネットワークブレード(x1~x4)



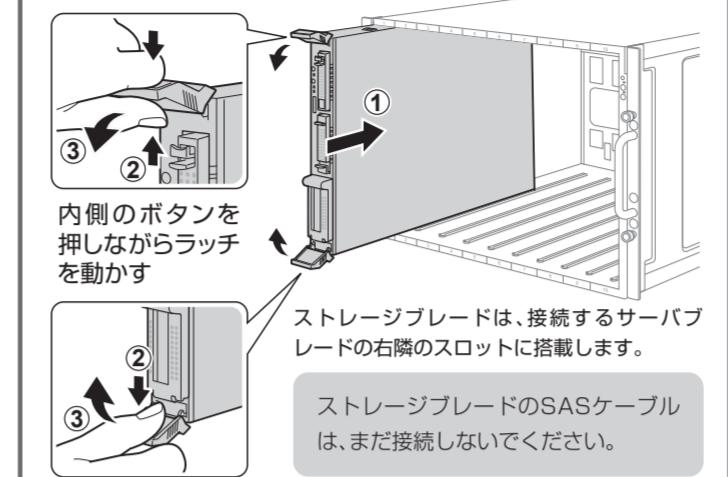
シャーシをラックに搭載する

ラックへの搭載手順は、『ラック搭載ガイド』をご覧ください。



3 サーバブレード/ストレージブレードを搭載する

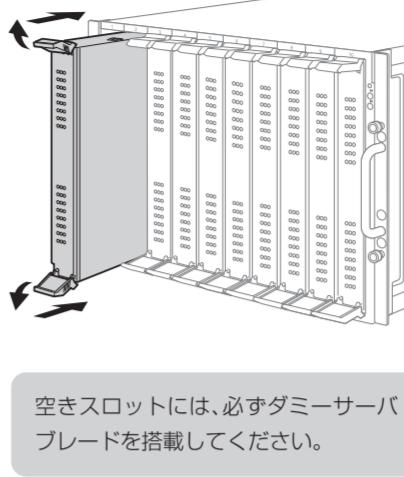
サーバブレード/ストレージブレードを取り付ける
サーバブレードに別売オプションを取り付ける場合は、
『ユーザーズガイド』をご覧ください。



内側のボタンを押しながらラッチを動かす
ストレージブレードは、接続するサーバブレードの右隣のスロットに搭載します。

ストレージブレードのSASケーブルは、まだ接続しないでください。

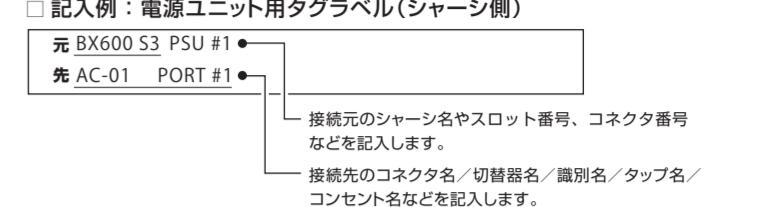
ダミーサーバブレードを取り付ける
空きスロットには、必ずダミーサーバブレードを搭載してください。



ダミーサーバブレードを接続する

4 各種ケーブルにタグラベルを貼り付ける

接続元/接続先を記入する
タグラベルは、ケーブルごとに接続元用/接続先用が1枚ずつ用意されています。下線の箇所に接続先名などを記入してください。



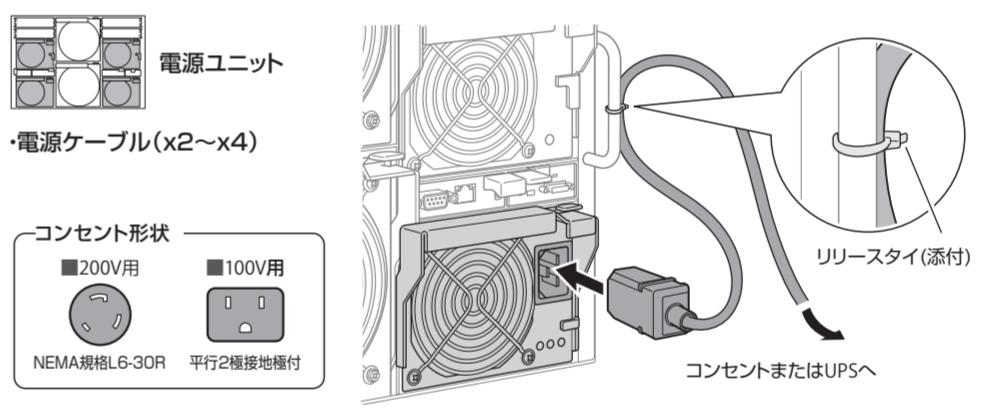
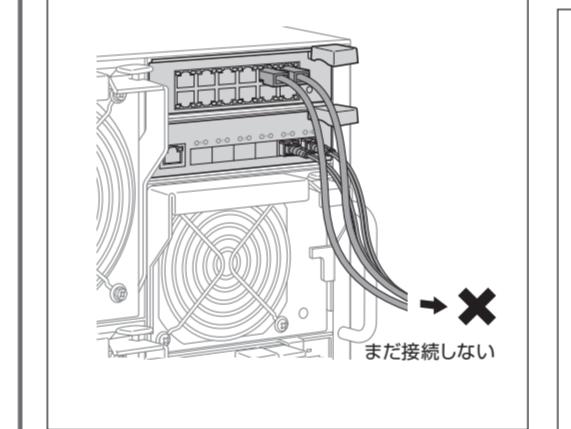
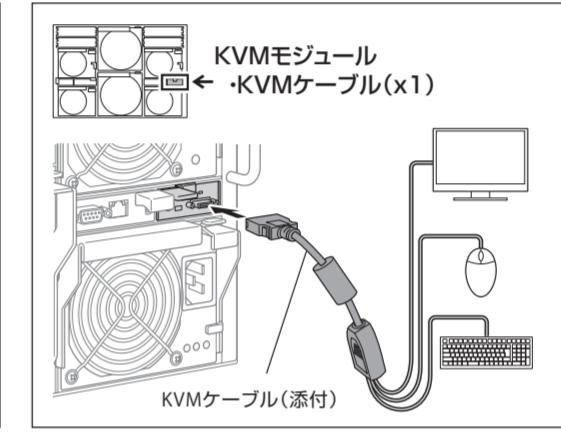
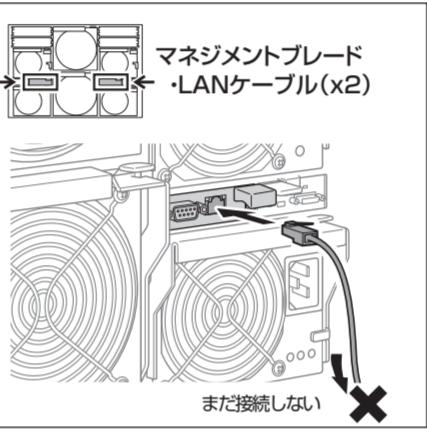
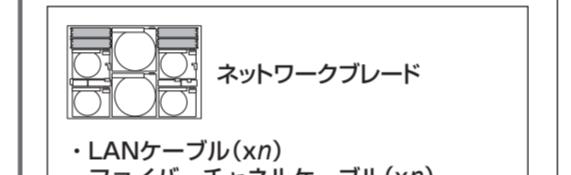
タグラベルを貼り付ける
ケーブル両側のコネクタに近い位置に、タグラベルの中心からケーブルに巻きつけるように貼り合せます。



5 シャーシ背面に各種ケーブルを接続する

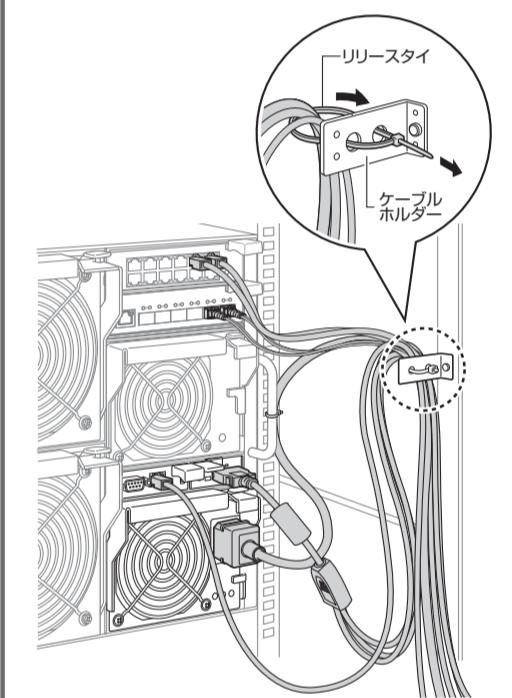
ケーブルを接続する
ネットワークブレード、マネジメントブレード、KVMモジュール、および電源ユニットに
対応するケーブルを接続します。

LANケーブルおよびファイバーチャンネル
ケーブルについては、すべての設定が完了するまで反対側のコネクタは接続しないでください。



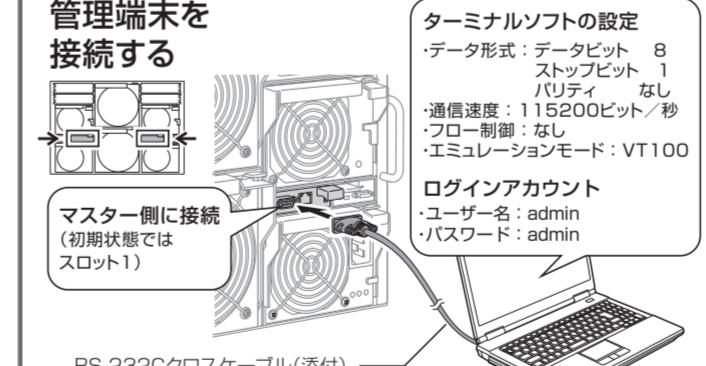
ケーブルのフォーミング

リリースタイ（シャーシに添付）を
使用して、各種ケーブルをまとめて
ケーブルホルダー（ラックに添付）に固定します。



6 マネジメントブレードの初期設定をする

管理端末を接続する



ターミナルソフトの設定
データ形式：データビット8
ストップビット1
パリティ：なし
通信速度：115200ビット/秒
フロー制御：なし
エミュレーションモード：VT100
ログインアカウント
ユーザー名：admin
パスワード：admin
マスター側に接続
(初期状態ではスロット1)

マネジメントブレードを設定する

マネジメントブレードの管理機能を使用するために、次の設定を行います。

マネジメントブレードを設定する

詳しくは、「マネジメントブレード ユーザーズガイド」をご覧ください。

管理アカウントのパスワードの変更

セキュリティ確保のため、ユーザー名「admin」のパスワードを変更します。

- 「(1) Account management」→「(2) Change User Password」の順に選択します。
- 新しいパスワードを入力します。
- もう一度、新しいパスワードを入力します。パスワードは最大で半角英数16文字です。大文字と小文字は区別されます。

時刻管理の設定

時刻とタイムゾーンの設定をします。NTPを使用する場合は、NTPサーバのアドレスを設定します。

- NTPを使用しない場合
「(1) Management Agent」→「(1) Management Agent Information」の順に選択します。
「(5) Set Time Zone」および「(6) Set Management Agent Data Time」の値を確認します。
3.値が間違っている場合には、それぞれの項目を選択して正しい値を設定します。
- NTPを使用する場合
「(1) Management Agent」→「(1) Management Agent Information」の順に選択します。
「(2) NTP Server IP」の順に選択します。
「(4) Set Management Agent NTP」→「(2) NTP Server IP」を選択し、NTPサーバのアドレスを設定します。

3.セカンダリNTPサーバーを登録する場合は、「(2) NTP Server IP」を選択し、アドレスを設定します。

4.「(1) Set Management Agent NTP」を選択し、「(1) Set Management Agent NTP」画面に戻ります。

5.「(1) Set Management Agent NTP」を選択し、値を「Enable」に設定します。

マネジメントブレード ユーザーズガイド

マネジメントブレードの管理機能を使用するために、次の設定を行います。

1.「(1) Management Agent」→「(1) Management Agent Information」の順に選択します。

2.次のいずれかを設定します。

■DHCPを使用してIPアドレスを取得する場合
「(4) Set Management Agent DHCP Configure」を選択し、値を「enable」に設定します。

■DHCPを使用しない場合
次の各項目を設定します。
「(1) Set Management Agent IP Address」(例:192.168.1.1)
「(2) Set Management Agent Network Mask」(例:255.255.255.0)
「(3) Set Management Agent Gateway」(例:192.168.1.254)

SNMPの設定

ServerView Operations Managerのサーバ監視機能を使用するために、SNMPエージェントの次の項目を設定します。

コミュニケーション名は、監視を行うServerView Operations Manager側と同じ値で設定してください。

1.「(1) Management Agent」→「(1) Management Agent Information」の順に選択します。

2.「(2) Agent SNMP Trap Table」を選択します。

3.「(1)~(5)のいずれかを選択し、SNMPトラップの送信先アドレスとコミュニティ名を設定します。

4.「(1)」を入力して1つ前の画面に戻り、「(3) Agent SNMP Community String Table」を選択します。

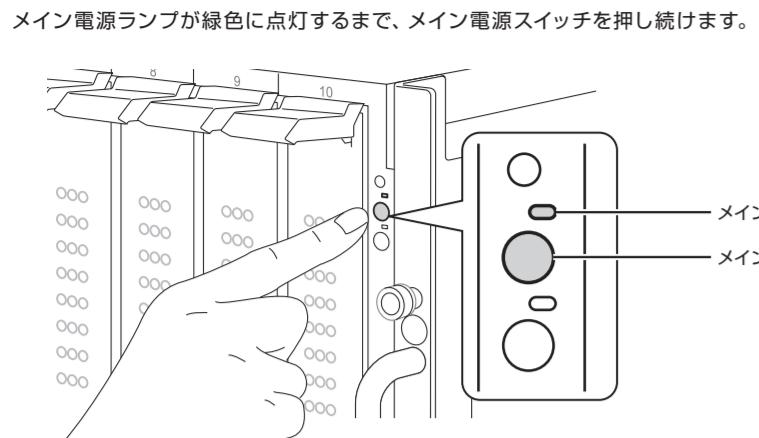
5.「(1)~(5)のいずれかを選択し、ServerView Operations Managerとの通信に使用するコミュニティ名を設定します。

6.「(1)」を入力して1つ前の画面に戻ります。

7.「(1) Set Agent SNMP Enable」を選択し、「enable」に設定します。

7

シャーシの電源を入れる



8

OSインストールの準備をする

ServerView Suite DVDを確認する

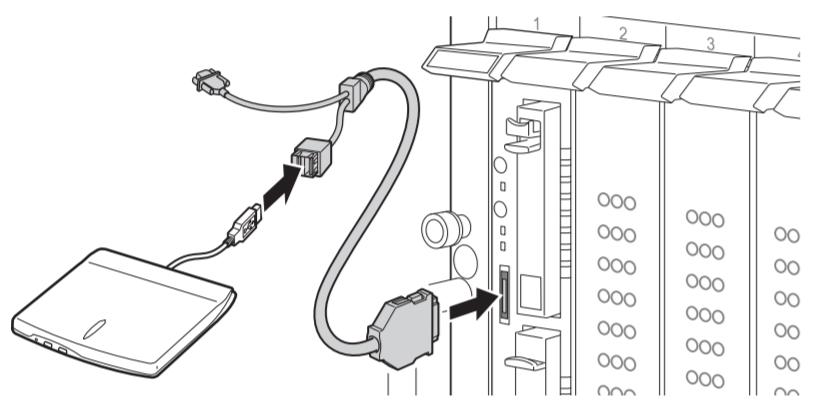
OSのインストールには、インストールするサーバブレードに対応した「ServerView Suite DVD」を使用します。

・シャーシとサーバブレードを同時に購入された場合は、シャーシに添付の「ServerView Suite DVD」を用意してください。

・別途サーバブレードのみを購入された場合は、サーバブレードと同時手配の「ServerView Suite」を用意し、以降の手順はサーバブレードに添付の「はじめにお読みください」をご覧ください。

DVDドライブを接続する

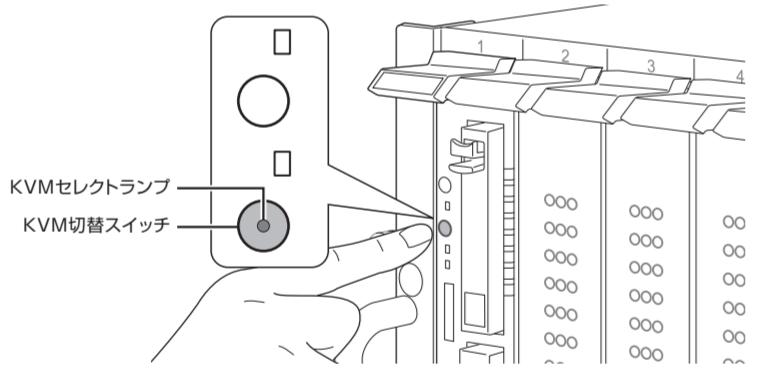
添付のディスプレイ／USB拡張ケーブルを使用して、DVDドライブ(USB)を接続します。



KVMモジュールと接続する

作業を行うサーバブレードのKVM切替スイッチを押します。

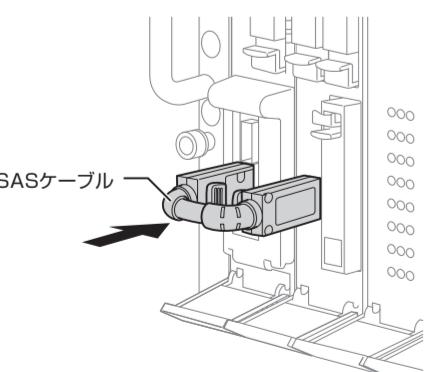
KVMセレクトランプが緑色に点灯し、KVMモジュール経由で入出力が行えるようになります。



10 OSインストール後の操作

ストレージブレードの接続／設定

ストレージブレードを使い場合は、図のようにサーバブレードとストレージブレードを添付のSASケーブルで接続してください。



その後、アレイコントローラのマニュアルをご覧になり、アレイの構築を行ってください。

LAN設定について

□ LANポートとアダプタ番号の対応確認

SVIMでは、インストール時に設定したネットワーク情報が、OSから見てどのアダプタに設定されるかを指定できません。インストール完了後に、必ず設定内容を確認してください。

確認方法については、各OSのヘルプなどをご覧ください。

□ 他のアダプタの設定

クイックモードでは、インストール時に設定できるLAN設定は1つだけです。必要に応じて、他のアダプタのLAN設定を行ってください。

ホットフィックスの適用
(Windowsの場合)

必要なホットフィックスを適用してください。

エラータの適用
(Linuxの場合)

必要なエラータを適用してください。

9

OSをインストールする

『ServerView Suite - ServerView Installation Manager』

ServerView Installation Manager (SVIM)を使用します。詳しくは、「ServerView Suite - ServerView Installation Manager」をご覧ください。
なお、Linuxを新規にインストールする場合は、SVIMを使用する前にインストールDVDを作成するなど、準備が必要です。

Windowsの新規インストール

1 SVIMでインストールを行います。

Linuxの新規インストール

1 インストールDVDを作成します。

インストールDVDは、RHN (Red Hat Network) からダウンロードして作成します。

RHNへの登録については、「Red Hat Network、サブスクリプションの登録方法」
(<http://www.redhat.co.jp/FAQ/regist.html>)をご覧ください。

1. RHNにログインします。
2. ISOイメージの公開サイトページを開きます。
インストールするディストリビューションを選択してください。
3. Binary DiscのISOイメージをダウンロードします。
RHNの画面にMD5チェックサムが表示されています。ダウンロードしたISOイメージのチェックサムが正しいか確認してください。
4. ダウンロードしたISOイメージから、インストールDVDを作成します。

2 富士通Linuxサポートパッケージ(FJ-LSP)を準備します。

FJ-LSPは、サポート契約されたお客様のみ対象となります。FJ-LSPは、富士通のSupportDesk契約者様向けサイト(SupportDesk Web : <http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/>)からダウンロードしてください。

3 SVIMでインストールを行います。

SVIMのアプリケーションウィザードでFJ-LSPを適用してください。

VMwareの新規インストール

1 インストールDVDを作成します。

インストールDVDは、VMwareのサイト (<http://www.vmware.com/jp/>) からダウンロードして作成します。
ダウンロードしたISOイメージから、インストールDVDを作成します。

ダウンロードを行うためには、ライセンス取得が必要となります。
詳しくは、「お客様登録とライセンス取得のご案内」[\[注\]](#)をご覧ください。
また、製品をご使用になる前にSupportDeskへの登録をお願いします。
[注] VMwareバーダルタイプをご購入の場合は、同梱されています。
それ以外の場合は、ソフトウェア製品をご購入いただく必要があります。

2 インストールDVDを使用してインストールを行います。

VMwareをインストールする場合は、SVIMは使用しません。
VMwareのインストール方法および使用時に留意すべき事項については、
VMwareの「ソフトウェア説明書」
(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/software/vmware/>)をご覧ください。

11

ネットワークブレードの設定／接続

スイッチブレード関連マニュアル

スイッチブレードを設定する
LANスイッチブレード、またはファイバーチャネルスイッチブレードをお使いの場合は、お使いの環境にあわせて各スイッチブレードのネットワーク設定をします。
詳しい手順、設定内容については、お使いのスイッチブレードのマニュアルをご覧ください。

1 管理末端からマネジメントブレードにログインします。
接続方法については、表面の⑥をご覧ください。

2 マネジメントブレードのConsole Redirection機能を使用して、設定を行うスイッチブレードに接続します。

1. 「(3)Console Redirection」→「(2)Console Redirect Switch Blade」の順に選択します。
2. 設定するスイッチブレードの搭載されたスロットを選択します。
ターミナルソフトウェアの画面に、スイッチブレードのログイン画面が表示されます。
3. 各スイッチブレードに設定された初期アカウントで、スイッチブレードにログインします。
初期アカウントについては、各スイッチブレードのマニュアルをご覧ください。

3 フームウェアの版数を確認します。

1. スイッチブレードのファームウェアの版数を確認します。
詳しくは、それぞれのスイッチブレードのマニュアルをご覧ください。
2. Webブラウザで「PRIMERGY」ページの「ダウンロード」
(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>)を開き、「ダウンロード検索」をクリックします。
3. 製品名および型名にお使いの製品を選択し、カテゴリに「ファームウェア、OS」に「OS選択なし」を選択します。
4. 「添付ソフト／ドライバ名」欄にお使いのスイッチブレードの型名を入力し、「検索開始」をクリックします。
5. 表示された一覧から最新のファームウェアのバージョンを確認します。
6. 手順1で確認したファームウェアが最新でない場合は、最新のファームウェアをダウンロードして更新します。
ファームウェアの更新手順は、ダウンロードしたファームウェアのドキュメントをご覧ください。

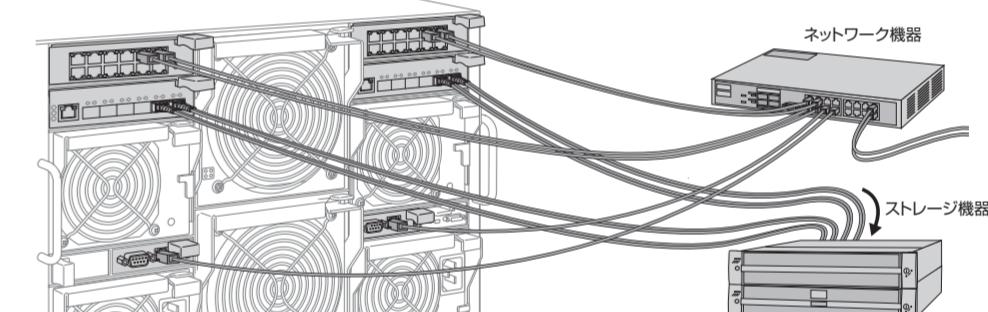
4 スイッチブレードに必要な設定を行います。

管理者パスワードや時刻設定、IPアドレス、VLANの設定など、お客様環境に応じたネットワーク設定を行います。
詳しくは、それぞれのスイッチブレードのマニュアルをご覧ください。

セキュリティ確保のため、必ず管理者パスワードを設定してお使いください。

ケーブルを接続先機器に接続する

⑤で接続したLANケーブルおよびファイバーチャネルケーブルの反対側を、ネットワーク機器やストレージ機器などに接続します。



注意事項

使用許諾契約書

富士通株式会社(以下「弊社」といいます)では、本サーバにインストール、もしくは添付されているソフトウェア(以下「本ソフトウェア」といいます)をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただく述べてください。

なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただき、お申い出をいたばれば当該本契約に同意したものとします。

ただし、本ソフトウェアの別ソフトウェアに別途お読み込みいただく場合は、本契約で定められた権利が適用されません。

3. ハードウェアの別ソフトウェアとの組み込み

本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込みで使用される予定した製品がある場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。

4. 拡張

(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2」および「3」の場合に限定されるものとします。

本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用(バックアップ)媒体以外には複製は行わないでください。

ただし、本ソフトウェアに複製権が付与してある場合は、複製できません。

(2) 本ソフトウェアに複製権が付与する場合、本ソフトウェアに記載されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。

5. 第三者への譲渡

お客様が本ソフトウェアに添付されている他の製品、マニュアル等に記載されている権利等を、第三者に譲渡する場合は、本ソフトウェアがインストールされたサーバとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することができます。

6. 改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。

7. 保護の範囲

(1) 弊社は、本ソフトウェアの複製は、上記「2」および「3」の場合に限定されるものとします。

本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用(バックアップ)媒体以外には複製は行わないでください。

ただし、本ソフトウェアに複製権が付与してある場合は、複製できません。

(2) 弊社は、前号によりお客様がそのような複製の可能について問い合わせられた場合も同様とします。

(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフツウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフツウェアに関する権利は、弊社が行う上記(1)の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。

8. ハイセイフティ

本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命、身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

Microsoft、Windows、Windows Serverは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red HatおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.の商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の著作物です。